

STEP 2. 日付から西暦を取り出す YEAR (イヤー)

1. セル「B3」に日付「2023/4/5」を入力しましょう

1 セル「B3」に「2023/4/5」と入力します。

	A	B	C	D	E	F
1						
2		2021/5/27		2021/6/6		
3		2023/4/5				
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						

2. セル「B4」に YEAR (イヤー) 関数を使いセル「B3」の日付の西暦 (2020) を表示しましょう

1 「日付/時刻」をクリックします。

2 「YEAR」をクリックします。

	A	B	C	D	E	F
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						

B3

3 セル「B3」をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2021/5/27		2021/6/6					
3		2023/4/5							
4		=YEAR(B3)							

関数の引数

YEAR

シリアル値 B3 = 45021

= 2023

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 = 2023

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

参考 「関数の引数」ダイアログボックスが邪魔になる時は

ダイアログボックスが邪魔になる場合はダイアログボックスを小さくしましょう。

関数の引数

YEAR

シリアル値 | = 数値

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

A シリアル値の  をクリックすると小さくなります。

B  をクリックすると元の大きさにもどります。

関数の引数 ? X

関数の引数

YEAR

シリアル値 B3 = 43864

= 2020

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 = 2020

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

4 シリアル値が「B3」になったことを確認します。

5 「OK」をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2021/5/27		2021/6					
3		2023/4/5							
4		2023							
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									

Formula bar: =YEAR(B3)

Callout 1: YEAR 関数が入力されました。

Callout 2: 「2023/4/5」の西暦部分「2023」が表示されました。

Callout 3: 「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=YEAR(B3)」と打ち込んでもかまいません。

ポイント YEAR (イヤー) 関数

日付に対応する年を整数で返します。

ひづけ
YEAR (日付)

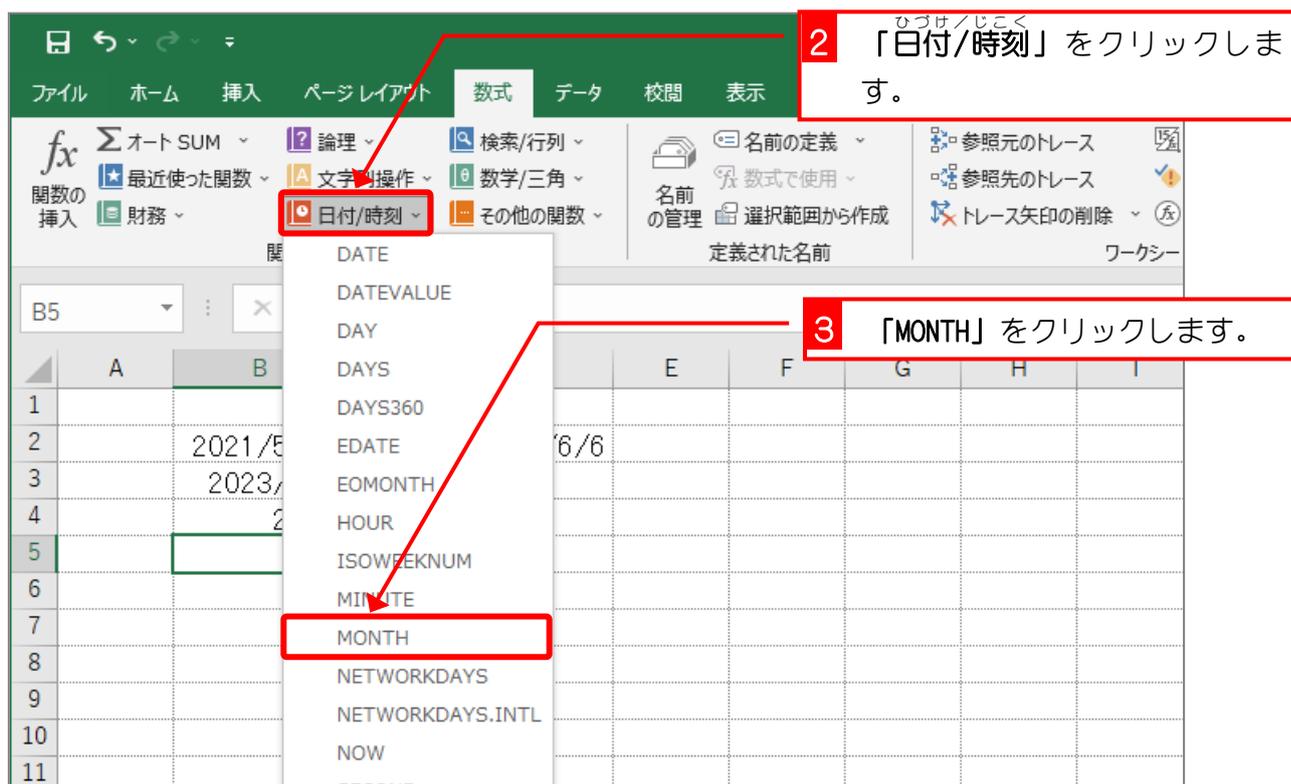
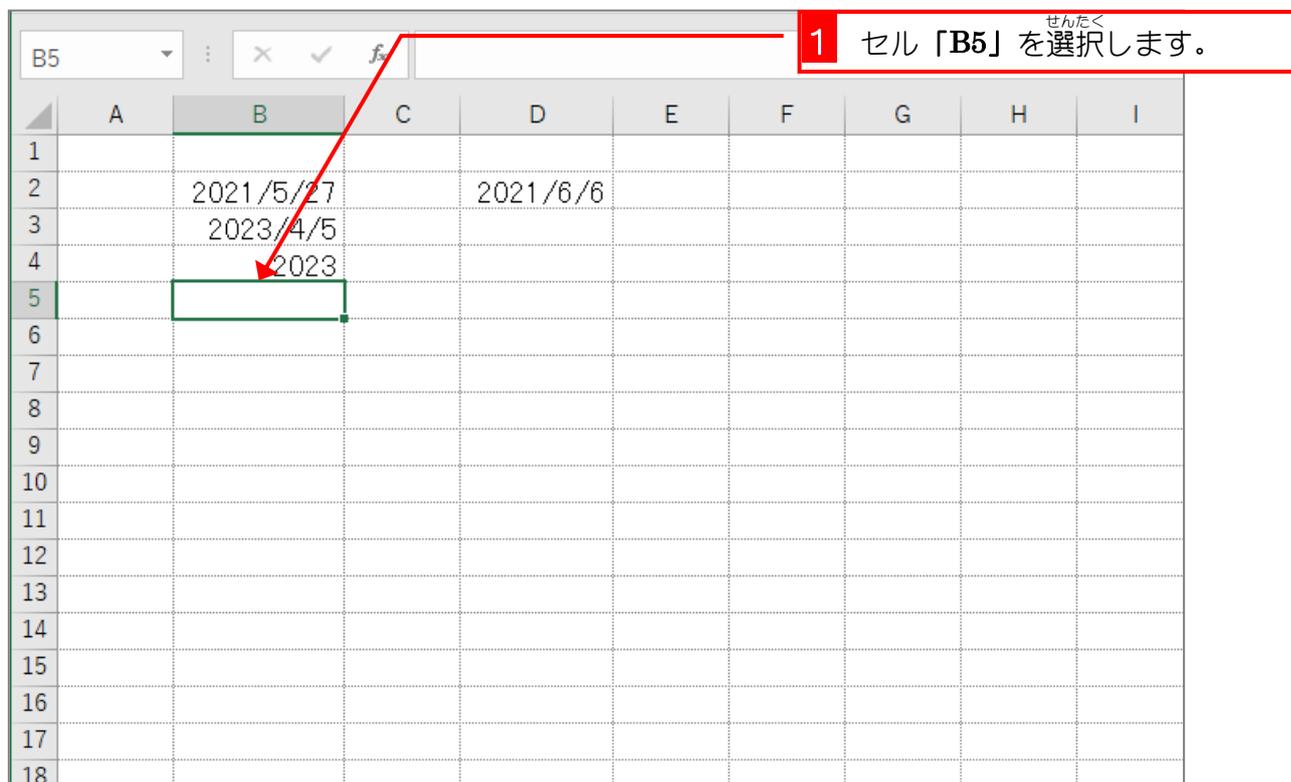
解説 関数の引数 (ひきすう)

関数を呼び出す時にその関数に渡す値を「引数」と言います。YEAR関数の場合「日付」が「引数」になります。YEAR関数は「引数」として日付の値を受け取り、その日付から西暦の値を計算し、計算結果を呼び出したところに返します。

「引数」は「YEAR (B3)」のように関数名の後に () を付けて記入します。TODAY関数は「引数」を必要としない関数ですが、引数がない場合でも () を省略せず TODAY() と書きます。

STEP 3. ひづけ つき と だ 日付から月を取り出す MONTH (マンス)

1. セル「B5」に MONTH (マンス) かんすう つか 関数を使いセル「B3」
ひづけ つき の日付の月の「2」 ひょうじ を表示しましょう



4 セル「B3」をクリックします。

5 シリアル値が「B3」になったことを確認します

6 「OK」をクリックします。

MONTH 関数が入力されました。

「2023/4/5」の月の部分「4」が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=MONTH(B3)」と打ち込んでもかまいません。

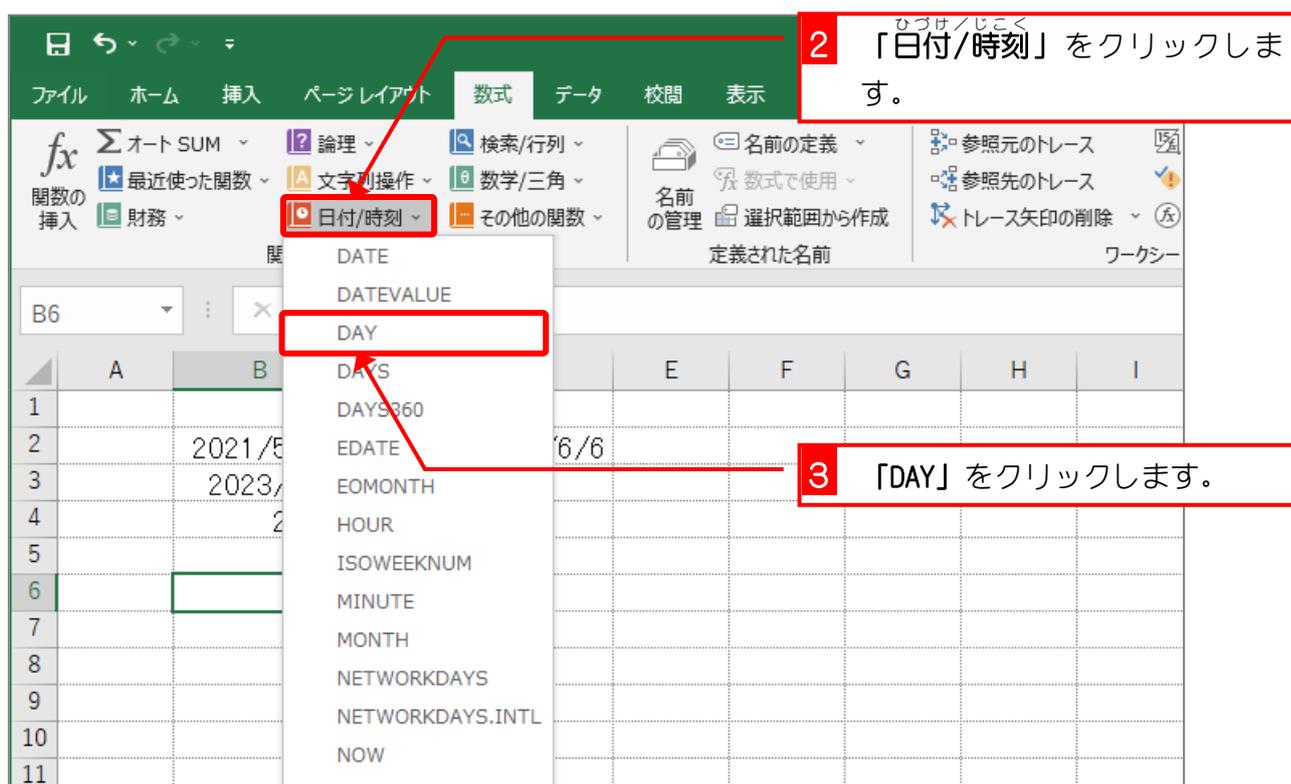
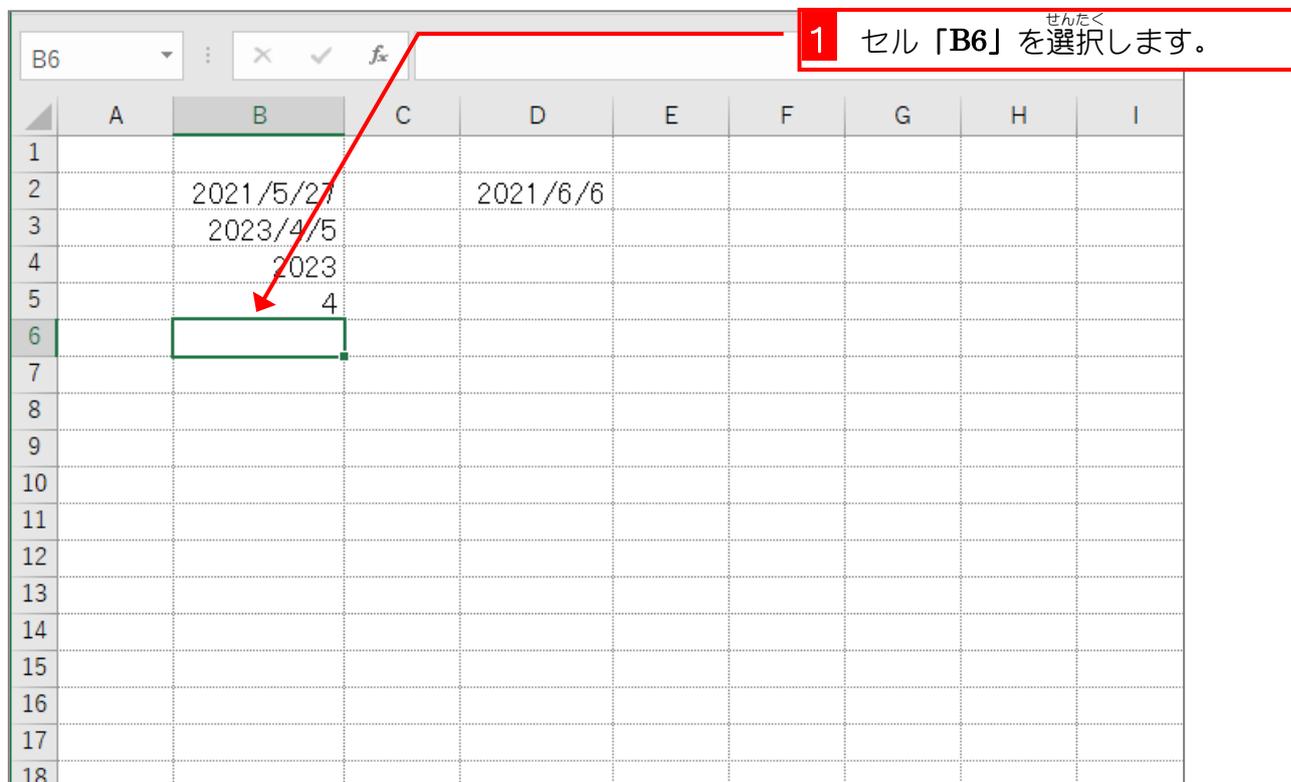
ポイント MONTH (マンス) 関数

ひづけ たいめい つき せいすう かえ
日付に対応する月を整数で返します。

ひづけ
MONTH (日付)

STEP 4. ^{ひづけ}日付から^{ひとだ}日を取り出す DAY (デイ)

1. セル「B6」に DAY (デイ) ^{かんすう}関数を使いセル「B3」の^{ひづけ}日付の^ひ日の「3」を^{ひょうじ}表示しましょう



4 セル「B3」をクリックします。

5 シリアル値が「B3」になったことを確認します

6 「OK」をクリックします。

	A	B	C	D	E	F
1						
2		2021/5/27		2021/6/6		
3		2023/4/5				
4		2023				
5		4				
6		=DAY(B3)				

関数 DAY が入力されました。

「2023/4/5」の日部分「5」が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=DAY(B3)」と打ち込んでもかまいません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2021/5/27		2021					
3		2023/4/5							
4		2023							
5		4							
6		5							

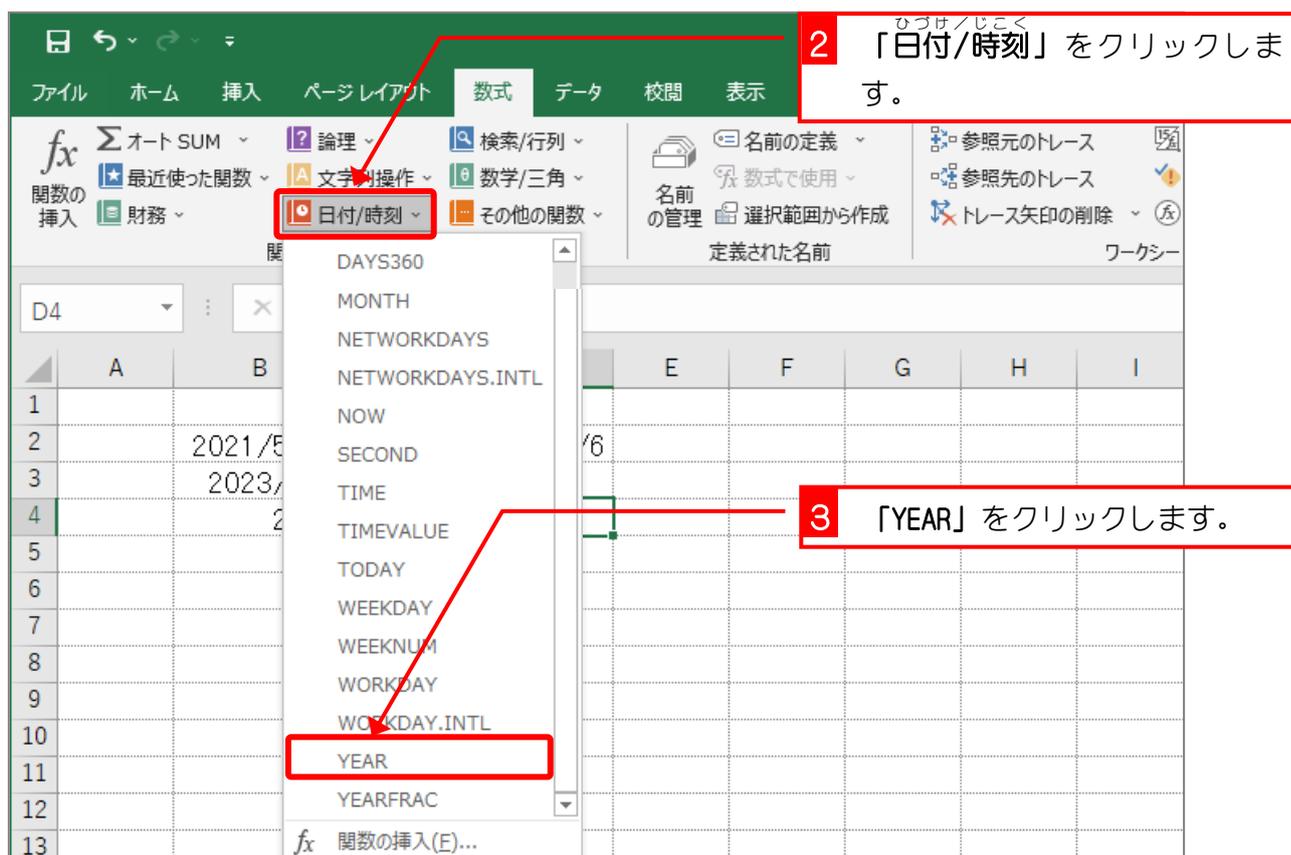
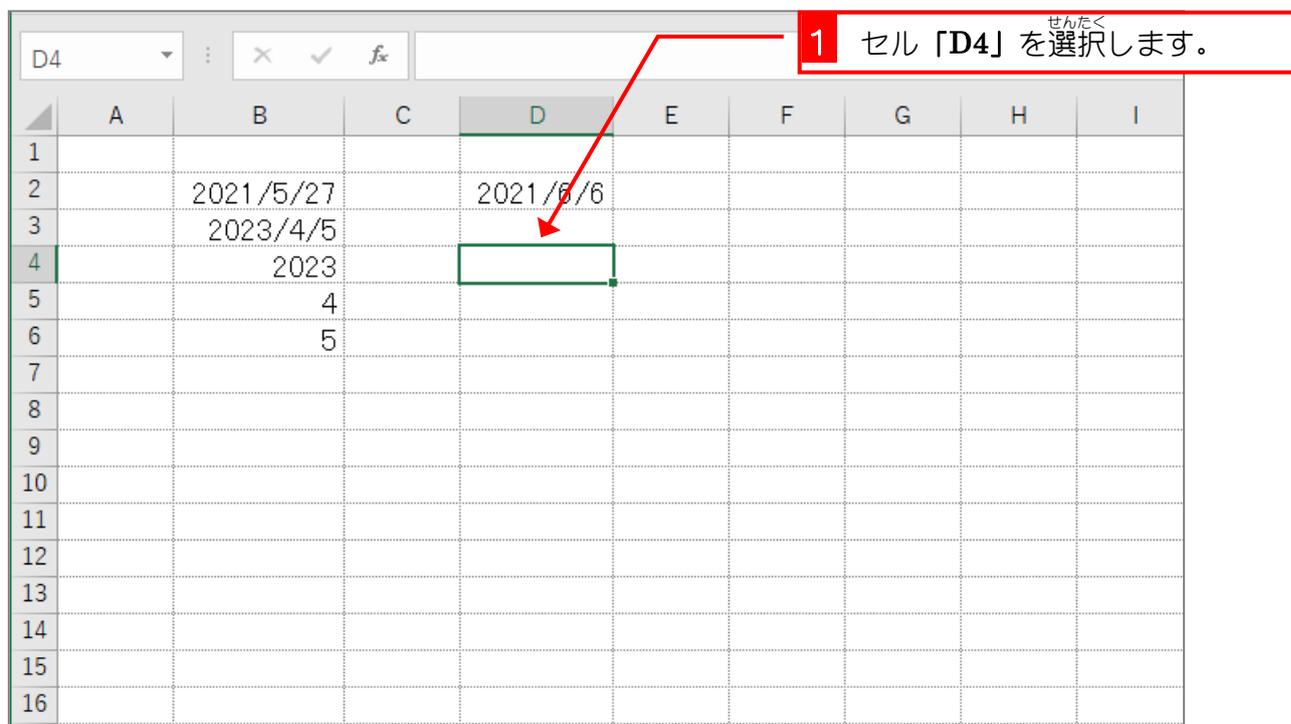
ポイント DAY (デイ) 関数

日付に対応する日を整数で返します。

ひづけ
DAY (日付)

STEP 5. 2つの関数を組み合わせて使う

- セル「D4」に TODAY関数と YEAR関数を使い、今日の
日付の西暦を表示しましょう



YEAR関数の引数を入力する画面(ダイアログボックス)が表示されました。

今日の日付の西暦を表示するには YEAR関数の引数に TODAY()を指定します。シリアル値の枠に直接「TODAY()」と入力してもかまいませんが、「名前ボックス」を使って入力してみましょう。

4 名前ボックスの ▼ をクリックします。

5 「TODAY」をクリックします。

TODAY関数の引数を入力する画面(ダイアログボックス)に変わりました。

YEAR関数の引数に「TODAY()」が入力されました。

6 「OK」をクリックします。

関数の引数

現在の日付を表すシリアル値 (Excel で日付や時刻の計算で使用されるコード) を返します。

この関数には引数はありません。

数式の結果 = 可変

[この関数のヘルプ\(H\)](#)

OK キャンセル

解説 関数の引数に関数を指定する

YEAR(TODAY())

これは TODAY関数で得た今日の日付を YEAR関数の引数として使用しています。
この例のように関数の引数に関数を指定することができます。

今日の日付の西暦が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=YEAR(TODAY())」と打ち込んでかまいません。

D4

=YEAR(TODAY())

	A	B	C	D	E	H	I
1							
2		2021/5/27		2021/6/6			
3		2023/4/5					
4		2023		2021			
5		4					
6		5					
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							